

問1 冷戦終結から1990年代にかけて、国際社会では地域的な経済協力や地球規模の課題解決に向けた動きが活発になりました。1989年に発足したアジア太平洋経済協力会議（APEC）よりも後に起こった出来事として、適切なものを選びなさい。（2018年

京都公立入試 類似）

1. 地球温暖化の原因となる温室効果ガスの排出削減を求めた「京都議定書」の採択
2. アジア・アフリカ諸国の代表がインドネシアに集まった「第1回アジア・アフリカ会議」の開催
3. 西ヨーロッパ諸国が経済的な結びつきを強めるために結成した「ヨーロッパ共同体（EC）」の発足
4. アメリカ合衆国を中心に西側諸国が結成した軍事同盟である「北大西洋条約機構（NATO）」の発足

問2 アメリカ大統領とソ連書記長が会談し、長年の冷戦の終結を宣言するに至った歴史的背景を説明したものとして、最も適切なものを選びなさい。（2024年 宮崎公立入試 類似）

1. ソ連において、国内の立て直しを図るための改革（ペレストロイカ）が進められ、西側諸国との協調路線に転換したこと。
2. ソ連がキューバに核ミサイル基地を建設したことで、アメリカとの間に核戦争の危機が高まり、軍縮の必要性が生じたこと。
3. 核兵器の開発競争においてソ連がアメリカを圧倒し、軍事的な優位性を確立したことで対立を続ける必要がなくなったこと。
4. 第二次世界大戦直後に東西ドイツの分断を決定した会談に基づき、両国の経済協力が順調に進んだこと。

問3 岩手県の人口動態において、20世紀半ばから21世紀初頭にかけての統計的な特徴を説明したものとして正しいものはどれですか。（2024年 岩手県公立入試 類似）

1. 1950年代に一度140万人を突破してピークを迎えた後、2000年から2010年にかけては約140万人から約133万人へと減少した。
2. 1950年代から2000年にかけて人口は一貫して増え続け、21世紀に入って初めて140万人の大台に乗った。
3. 1880年から現代まで、岩手県の人口は常に80万人から100万人の間で推移しており、140万人に達した時期はない。
4. 1900年から1940年にかけて人口が倍増したが、1950年代に人口が140万人を大きく割り込む原因となった。

問4 1989年にアメリカとソ連の首脳が「冷戦の終結」を宣言するに至った、当時の国際情勢の説明として最も適切なものはどれですか。（2024年 埼玉県公立入試 類似）

1. 東ヨーロッパ諸国において、一党独裁体制を打倒しようとする民主化運動が急速に広がった。
2. ソ連がアフガニスタンへの軍事侵攻を開始し、西側諸国との緊張が最大に達した。
3. アメリカを中心とする北大西洋条約機構（NATO）が結成され、軍事的な優位が確定した。
4. キューバ危機が発生し、核戦争の回避を目的とした核兵器制限交渉が始まった。

問5 歴史的な事象を時代区分ごとに整理する際、奈良時代から平安時代にかけての遣唐使が含まれる区分と、戦後の第五福竜丸事件が含まれる区分の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2020年 北海道公立入試 類似）

1. 古代と現代
2. 古代と近代
3. 中世と現代
4. 中世と近代

問6 日本の伝統的な食文化である「和食」が、ユネスコ無形文化遺産に登録される一方で、現代社会においてその継承が課題となっている背景を説明したものとして、最も適切な記述はどれですか。（2022年 広島公立入試 類似）

1. 外食の日常化や調理機会の減少により、家庭内で伝統的な調理技術を伝える場が失われつつあること
2. 海外からの輸入食材の使用が全面的に禁止されたため、伝統的な献立を再現できなくなったこと
3. 健康への関心の高まりによって、塩分を含む伝統的な保存食がすべて法律で否定されたこと
4. 年中行事の簡略化が進み、特定の季節に特別な料理を食べる習慣が日本から完全に消滅したこと

問7 日本の近代から現代にかけての生活文化の変遷について述べた以下の4つの出来事について、年代の古い順に正しく並べたものを、あとの中から一つ選びなさい。1：太陽暦の採用や牛鍋を食べる習慣など、西洋の文化を取り入れる文明開化が進んだ。2：ラジオ放送の開始やデパートの隆盛など、大正から昭和初期にかけて都市文化が発展した。3：戦争の影響による物資不足のため、生活必需品に対して配給制が実施された。4：高度経済成長期を迎え、テレビや冷蔵庫などの家電製品が一般家庭に広く普及した。（2020年 和歌山公立入試 類似）

1. 1 → 2 → 3 → 4
2. 1 → 3 → 2 → 4
3. 2 → 1 → 3 → 4
4. 4 → 3 → 2 → 1

## 答え合わせ・解説

- 問1** **答え 1**  
**地球温暖化の原因となる温室効果ガスの排出削減を求めた「京都議定書」の採択**
- アジア太平洋経済協力会議（APEC）の発足は1989年であり、京都議定書の採択はその後の1997年です。他の選択肢であるアジア・アフリカ会議（1955年）、ECの発足（1967年）、NATOの発足（1949年）はいずれも冷戦期またはそれ以前の出来事であり、1980年代末以降のグローバルな環境保護の動きとは時期が異なります。
- 問2** **答え 1**  
**ソ連において、国内の立て直しを図るための改革（ペレストロイカ）が進められ、西側諸国との協調路線に転換したこと。**
- 1980年代後半、ソ連のゴルバチョフ書記長が推進した「ペレストロイカ（改革）」により、停滞していたソ連国内の経済・社会を立て直すため、アメリカとの対話が進みました。この流れの中で1989年にマルタ会談が開かれ、長年の対立関係を解消することで合意しました。他の選択肢にあるキューバ危機やベルリンの壁の建設などは、冷戦の緊張が高まっていた時期の出来事です。
- 問3** **答え 1**  
**1950年代に一度140万人を突破してピークを迎えた後、2000年から2010年にかけては約140万人から約133万人へと減少した。**
- 岩手県の長期的な人口推移を見ると、1950年代に最初の大きなピークがあり、この時期に140万人を超えています。その後、21世紀初頭の2000年時点でも140万人近い水準にありましたが、そこから2010年にかけての10年間で約133万人まで減少しており、少子高齢化や社会増減の影響による人口減少局面に入っていることがわかります。「1900年から1940年の間に人口が2倍になった」という事実はなく、また「全時期を通じて80万人以下」という説明も誤りです。
- 問4** **答え 1**  
**東ヨーロッパ諸国において、一党独裁体制を打倒しようとする民主化運動が急速に広がった。**
- ソ連のゴルバチョフ書記長が進めた改革（ペレストロイカ）をきっかけに、ポーランドやハンガリーなど東欧の社会主義国で自由化・民主化を求める運動が激化しました。1989年11月には冷戦の象徴であった「ベルリンの壁」が崩壊し、ソ連の影響力が弱まったことが、同年12月のマルタ会談における冷戦終結宣言の決定的な背景となりました。
- 問5** **答え 1**  
**古代と現代**
- 奈良時代や平安時代は、天皇や貴族を中心とした国家体制が築かれた時期であり、日本の歴史区分では「古代」に分類されます。一方、第二次世界大戦が終結したあとの「戦後」と呼ばれる時期は「現代」に分類されるため、1954年に発生した第五福竜丸事件は現代の出来事にあたります。
- 問6** **答え 1**  
**外食の日常化や調理機会の減少により、家庭内で伝統的な調理技術を伝える場が失われつつあること**
- 現代の日本では、生活スタイルの変化に伴い外食や加工食品の利用が日常的になっています。これにより、家庭で出汁（だし）をとるなどの基本的な調理を行う機会が減り、親から子へと受け継がれてきた伝統的な食文化の継承が困難になっていることが大きな社会課題となっています。
- 問7** **答え 1**  
**1 → 2 → 3 → 4**
- 明治初期には文明開化が起こり、1873年から太陽暦が採用されました。その後、大正から昭和初期（1920年代）にかけてラジオ放送の開始やデパートの登場といった都市文化が開花しました。1940年代の戦時中には物資統制のための配給制が導入され、戦後の1950年代後半から70年代にかけての高度経済成長期には、三種の神器と呼ばれた家電製品が普及しました。これらの歴史的背景を時系列で捉えることが重要です。